はまなし

鶴岡市立西郷小学校　学校だより
令和５年度 第６号（２０２３．８．２５発行）
～家庭・地域とともにある西郷小学校～

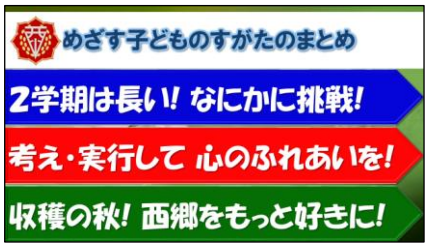
２学期始業式

長く暑かった夏休みが終わりました。子どもたちの元気な声と日焼けした笑顔が、学校に戻ってきて、校舎も喜んでいるようです。この夏のさまざまな体験・出来事を通して、また一回り大きくたくましくなったような印象を受けます。

２学期始業式では、３年生の本間さん、５年生の齋藤さんが、２学期のめあてを、はっきりとしたよく通る声で発表してくれました。

校長からは「のび太君のいいところって何？」と問いかけ、のび太君の持つ「あきらめない挑戦の心」を紹介しました。１年間で一番長い学期ですから、自分で挑戦したいことを決めて、ぜひ取り組んでほしいと願っています。

また、２学期には地域・家庭の皆様からご協力いただいているお米・大根・大豆・ネギも、収穫の時期を迎えます。西郷の子どもたちにとって、農業体験とは未来を引き継ぐ営み……。感謝のつどいとは、西郷の地域文化であり、地域・家庭・学校による最大イベント……と考えてきました。昨年度、田畑で取れた作物をおにぎりと豚汁に調理し、子どもたちと職員でいただきました。最高に美味しかった感覚がまだ舌先に残っている気がします。今年こそは「感謝のつどい（11/2）」で、お世話になった方々と一緒に会食をしたいと考えております。地域・家庭の方々とのふれあい・協働・語らいが、子どもたちの西郷を愛する心、西郷を大切に考える心、西郷の未来をよりよくしようと願う心を育てていくのです。皆様方のご理解とご協力を、どうぞよろしくお願い申し上げます。



学校文集「ゆきやなぎ」の廃刊について

毎年度の終わりに刊行していた学校文集「ゆきやなぎ」ですが、この度廃刊させていただく運びとなりましたので、地域とご家庭の皆様に謹んでお知らせいたします。ご家庭の皆様には、より詳しく説明したプリントも配布しておりますので、併せてお読みください。

１：現状の問題

【問題１】国語科における「書く活動」の多様性 と 配当時数の関係

学習指導要領の改訂に伴い、学校として取り組まなくてはならない内容が増えました。学校文集に綴られる「生活文」は、国語の「書く活動」にあたりますが、「書く活動」の対象はそれだけではありません。観察記録文、手紙文、意見文、創作文や詩歌といった多種多様なジャンルに幅広く取り組むことで総合的に育てることが求められているのです。一方で「書く活動」に配当できる時数にも限りがあります。文集の原稿が完成まで各学年で数時間～１０時間をかけておりますが、そのために本来ならば他のジャンルに充てるはずの時数も取り崩しているのです。もし学校文集を廃止することができれば、学習指導要領で示されたとおりに「書く活動」を展開することができ、書く力を高める指導に力を注ぐことができる体制が整います。

【問題２】コロナ禍に伴う物価高騰 並びに 児童数減少に係る単価の上昇

新型コロナウイルスに伴う物価高騰により、今年度、学校文集の単価は昨年度比で１冊あたり約４００円値上がりしました。また、児童数も令和７年度の下限に向かって減少し続けます。児童数を元に見積書を依頼したところ、今年度→令和６年度に約５００円、令和６年度→令和７年度に約２００円、単価が上昇することがわかりました。こうした単価の上昇は、ＰＴＡ会費の逼迫にもつながってきます。

２：PTA三役との協議

上記の問題について、ＰＴＡ三役の方々との話し合い(7/12)を持ちました。協議の結果、「廃止」の方向で調整していくように決まりました。同時に「廃止の際には学校文集の代わりとなるものを残す」こととし、「代用物が担保できる場合には、今年度分から廃止してもよい」との約束も交わしました。

先日、職員と話し合い、学校文集に代わる方法を確認いたしました。つきましては、条件が整いましたので、学校文集を今年度より廃止させていただくことといたします。

【学校文集の代用物】

・生活科の学習カードや、購入したファイルに書いた作文や詩を綴じ込む。・作文帳の活用　等

創刊号以降、第６５号まで回数を重ね、多くの皆様に読み継がれ、親しまれてきた学校文集「ゆきやなぎ」ですが、以上の事由によりまして、「今年度、刊行せずに廃止」という判断に至りました。地域・保護者の皆様におかれましては、ご理解いただきますようお願い申し上げます。